

思春期なアダム2

背後をねらう者

さかき傘
挿絵／天海雪乃



あとみっく文庫／PDF立ち読み版

地遊尼エンジュ

睦月を護衛する天使少女。身の丈ほどもある大剣を操る。



藤田陸月

普通の少年だが、右目に女性を支配する“蛇眼”の力を秘めており、現在はエンジュたちと同居し、保護されている。



地遊尼ミカ

睦月とエンジュ、二人の保護者となる大人っぽい美人の先輩天使。





とわ 里輪ルシア

蛇眼を狙う悪魔の美少年だが、陸月に懐き、学園に転校してきた。



くりからさや 九里空沙耶

陸月のクラスメイトの明るい少女。



黒猫

『FeTUS』から派遣された謎の少女。



いべくさ 伊部草マキナ

秘密組織『FeTUS』の一員の、物静かな少女。同級生として陸月を監視する。

STORY

藤田陸月——クラスメイトの少女、伊部草マキナがちょっと気になる、ごく普通の少年は、下校途中に妖艶な少年、ルシアによって、自分の右目に眠る謎の力を目覚めさせられる。だが、突如現れた天使のエンジュとミカに救われた彼は、それが、世界のあらゆる女性を発情させる“蛇眼”の力であり、その力を悪魔や人間の勢力が狙っていることを知らさ

れるのだった。家族と離れ、エンジュたちに護衛されながら、エッチで奇妙な同居&学園生活を送る陸月。ルシアやエンジュの小競り合いの中、彼はクラスメイトのマキナと急接近。ついには結ばれるも、マキナもまた人間側の秘密組織『FeTUS』の一員であることを告げられてしまう。そして、陸月のクラスに、ルシアまでが転校してきて……。

ぴちやぴちやとおへそや乳首、あまり出ていない喉仏、唇に、生温かい舌を這わせてくるミカ。

二人は一ヶ月前、初めて出会った日にもう、蛇眼の力を実験する流れから、最後までしてしまつた関係である。

ただ……こちらの家に移つてからの十日間はご無沙汰だった。仕方ない。家が狭くてエンジユから隠れるスペースがないのだから。

久しぶりなためか、ミカのテンションはかなり高かった。

「ね、ね、こつちも流して」

タオルを奪つて身体をよじり、器用に自分のお尻の上で雑巾しぼりにする。

じゅぶうう……。たっぷり残つたソープが、茶褐色の肉たぶに落ちていった。

「はい」

言われた通り睦月は、手で直にお尻を洗つてあげる。もっちりした弾力を、形が崩れるくらい押し揉んだ。

指圧するように強く親指を立てたり、五指とも食い込ませて握り、こすり合わせて中央の谷間を摩擦したり。

（ミカさんのお尻、むにゅむにゅして気持ちいい）

ソープに濡れて粘っこくテクかる臀丘は、ややすべつて掴みにくい。じっくりじっくり時

間をかけて、大人っぽく熟れた濃密な弾力に、指紋をうつすよう揉んだ。

「あ……ん……、そ、上手ね」

腰椎や仙骨にしみこむような力加減に、女はうつとり目を細める。

ごほうびだろうか。ちゅっちゅつと顔の至るところにキスがきた。耳、頬、鼻、額、目尻、あご。それから、

「はむ」

「んん……」

唇。

ごほうびは続き、ニユルりとあごが蕩とろけそうに柔らかな感触まで、口に入ってくる。

こういうときのお姉さんには、有無を言わせない魔力があった。恥ずかしそうにしながら舌をさしだす睦月。すぐさま長々と伸びた彼女の舌が巻きついてくる。

——にゆく、にゆく、にゆく、にゆく、にゆく。

「うっ、……うっ、んっ」

フェラチオでもするような緻密さで、さしだした舌を可愛がってもらおう。

口の中から身体が溶かされているような美味しい快感に、睦月はたまらず鼻を鳴らした。彼女はさらにぐいぐい巨乳を押しつけたり、かと思えば優しく頭を撫でたり。余裕たっぷり年下少年を導く。

ただ、甘く香る唾液に満たされて恍惚としながらも睦月は、
(ミカさんのなか、柔らかくてイイ匂い。それに……)

細めた目で、すぐ前の表情を観察していた。

(……顔もエッチになってきた)

彫りが深くてラテンな顔つきのミカは、感じてくるところして、切れ長の目がぼんやりしたエロティックな表情になる癖がある。

初心で経験の少ない少年にも分かりやすい発情のサインだった。

キスの味も好きだけれど、そんな表情を、世界一 nearby で見ていられるのもたまらない。もつといやらしい顔をさせたくなり、舌を絡め続けながら、おぎなりになっていたヒップをまさぐりだす。

「え……？ 睦月く……んあつ、ソつ、は……」

(ソフトなタッチが好きなんだよな。それで……)

泡のすべりを活かして、指を中心部へ近づけた。むちむち脂の乗った内太ももを触るか触らないかの加減でくすぐる。

「んふうつ、あつ、もおお……。や、やらしい子ね——ふいあつ」

フェザータッチに神経が尖ったところで、またぎゅつと強めに掴んだ。

あえて中心部を避けた、だからこそ大切なところが痛いくらい疼かされてしまう丹念なマッサージに、ミカは舌を巻く。

睦月は——。女性を強制的に発情させる『蛇眼』こそ生まれついていたものだが。相手の悦ぶポイント、タイミング、力加減を掴む才能にもまた天性のものがあつた。

身体を重ねるたびにこちらが弱いところを読み取ってくる。感性が人一倍鋭く、「好きな人を喜ばせたい」という気持ちも強いのだろう。

「あう……っ、は、あふ——うむうん」

絶妙な力加減と、あえて急所をはずしたテクニクを受けると、どうしても身体全体が高ぶってしまう。

しゃぶりつかれ、ヌチヌチしごかれる舌からの快感が、ぐつと深まってきた。

(も、こ、この子、いつの間にかこんな……。つふあ、だ、だめ)

一ヶ月前に童貞を奪ってあげたときは、涙目になって喘ぎながら、赤ん坊のように抱きつくばかりだったのに。末恐ろしいものを感じるミカ。

舌の裏をこすられながら、流れてくる若々しい唾液を飲みくだしたとき、つーんと鋭い快感のパルスが背筋を伝った。

——じゅくり……。

電流の伝った秘園の奥から、触ってほしいと抗議するように、熱い果汁がふきだして太

ももの付け根を汚す。

「……んっ、ほ、ほら。睦月君のも洗ってあげる」

このままでは身も心もトロトロにされてしまう。危機感を感じたミカは、年上のプライドから、あわてて手をふりほどいた。

「あ……はい。お願いします」

内面的には一ヶ月前と変わらないので、睦月は大人しく従う。

☆

☆

待っていると、膝から下りたミカが、優しくズボンを脱がせてくれた。

もう見られ慣れている関係だが、やはりその瞬間は少し恥ずかしい。とくに現れたものが、あさましいくらいガチガチになっているようでは。

「今日はまたすごいことになってるね。匂いも強いし」

「すいません」

「そか、十日だもんね」

まだ顔を近づけてもいないのに、ホルモンの匂いがムツと鼻にくる勃起の雄々しさに、お姉さんはクスツと相好を崩した。

「オナニーせずに溜めといたんだね。えらいえらい」

「いやあああああつ！ み、ミカさん！」

穂先を掴んで、亀頭部に『えらいえらい』してくる。

いまはめくれているものの、いつもなら包皮で守られているそこは、まだ刺激に弱かった。電気が走ったような衝撃に少年は腰をびくびくよじらせる。

そんな情けない姿を見て、ミカは安心したように笑い、

「じゃ、洗いっこしよ♡」

唾液にまみれた舌を覗かせつつ、身体を返してきた。

寝転んだ睦月に彼女がまたがる……シックスナインの格好だ。睦月は湯船のへりにもたれたままなので、より顔の近くに彼女のお尻を迎える。

「んふ……」

大事なところがすべて丸見え。むしろ谷間の奥地や太ももの付け根を強調するようなポーズで、女は長いブロンドをかきあげ、頭の位置をさげていった。

ちろちろ小刻みにウネる柔らかいものが、敏感なところに触れ、睦月は喉を鳴らす。

（あ、相変わらず……ミカさんの口、すごすぎ。……あつ、あつ、やばつ）

肉というよりはゼリーに近いくらい柔らかいものが、フォルムにへばりついてうごめく。生熱い快感に、睦月は歯を食いしばった。

雁首の少し下へ唾液をすり込まれる感覚は、ペニスどころか腰の骨まで溶けてしまいうな気持ちよさだ。それだけでも十日分の体液を蓄えた精巣が疼くのに、舌はさらにぐりりと伝って、裏筋、亀頭、先つちよの尿口にまでこちよこちよイタズラしてくる。

「っ……、っっ……!!」

ざらざらした柔らかかみが、敏感な皮膚の上で踊る感触。気持ちいいというよりはムズがゆくて、腰をよじらせた。

「んっ、んふっ。……ほんとやらしい味と匂い。十日分つてすごいよね」

今日はことさら、ミカの舌使いに熱が入っていることもある。

不潔にはしていないのに、ギンギンに滾ったペニスからは、舌にぴりぴりくるような塩辛さが放たれていた。少年がわななくのに合わせて、尿口の切れ目にぶくつと透明な汁が浮かび、精子そのもののような青臭さを放つ。

舌へ、鼻腔へぬりつけられる、子供とは思えない男性ホルモンの強烈さに、女体の本能が反応してしまう。

「~~~~♡ ココもむちゃくちゃ開いてる」

崖のような段差を作る雁首に、女が目を丸くする。

「こんなに太いと……、子宮までかき出されちゃいそうね」

開ききった傘を啜くわえて、ぬるぬると顔全体を上下させた。あのたちまち虜になるデ---

プキスを、怒張に直接受けて、睦月はたまらず背筋をのけぞらせる。

「はっ、うあ……っ、ミカさっ、それ、すごい……」

「んふふ、……っふ、んふ……。ンンむ」

シャフトの表面を、ヌメらかな柔唇が上下する。舌は変わらず尿口の切れ目をつつき、手では、玉袋をそつと底から撫でられる。いたれりつくせりの奉仕だった。

ただ歡喜の声をあげたのは、少年ばかりではない。オス臭い巨肉に奉仕することで、彼女自身も高ぶってしまったらしい。ミカもまた濃厚な奉仕の一方で、低く唸り声を鳴らし、腰をくねくねさせている。

見ていてこれは洗いつ『こ』なんだと思い出す睦月。快楽を紛らわせがてら、すぐ前にきているチョコレート色の肉たぶを掴んだ。

むぎゅむぎゅとまるやかな球形を揉むと、先ほどよりさらに激しく腰が揺れ惑う。

（ミカさんも……気持ちいいんだ）

掴んでいると分かるのだが、ミカはお尻の肉そのものが、重要な性感帯のようだった。

マッサージの手つきに乗せて、きわどい肉所では、充血した花弁が大切な中身を守るといふ役目を放棄し、外側へめくれ返っていく。底にある蜜層では、なにか食いつくものが欲しいとばかり、波打ちながらぼっかり口をあけているほどだ。

そして、それ以上に、

「……………うわあ」

肉タブの中心にあるものに気づく睦月。

シックスナインの格好なので、紅色の皺しわを上品すばに窄めた、柔らかそうな秘肛が丸見えになっっている。

上体を起こしているの、見やすい高さの排泄口が、ひゅくんひゅくんと呼吸するようにうごめいていた。薄暗い中身がちらと見えてしまうくらい、激しく。

茶褐色のワイルドな肌の奥地に隠れた、幼女の唇みたいな色の粘膜。

美味しそうなサーモンピンクに、睦月はぶるつと震えがくるくらいの興奮を覚えた。かすかに喉を鳴らして……、

——ねと……お。

「ふふやつ!! ちよ、睦月くん!!」

突然のことすぎて、あわててシャフトを吐き出すミカ。

「ごめんなさい。だってミカさんのお尻、可愛いんだもん」

睦月は悪びれることもなく、ヒップに顔をぶつけて、ふつくと中央に息づく愛くるしい肉所に舌を埋めていった。

彼女とのディープキスで磨いた舌技を見せつける。寄り集まった皺を一本一本分けるように掃いて、唾液と熱とで肉を柔らかくしていく。

「んあつ、は、あのつ、睦月くん、そこッ、そこは——」

エッチなお姉さんも、こちらの刺激には慣れていないようだった。びっくりした括約筋があわててギュッと肛門をしめる。

睦月はかまわず浮き上がるリング状の筋肉にキスして、ちゅうちゅうと吸い上げた。

「こ……こおらあ……、ソコ、汚いって」

「ミカさんの身体で汚いトコなんてないです。……ンン」

輪の中心には舌をあてがい、ゆるゆると穴を広げるようつつく。

きれいなことをする箇所でないのは分かっている。けれどミカの身体なのだ、少年は心から、不潔などとは思わなかった。

それだけ睦月の中でミカの存在は大きい。

甘え上手な同居人で、頼りになるお姉さんで、包み込んでくれる母親で。そしていまは、誰より愛しい恋人。

ムチュチなボディのどこもかしこもキスしたいし、もっとエッチな顔を見せてほしい。なにより、もっとたくさん感じてほしい。

そんな気持ちをこめて、肛門を丹念に、丹念にホジくっていった。

「あ……、わ……。ふあああ………つ、んっ」

思いはミカ自身より先に、ミカの肛門に通じてしまい、ネッチリ愛撫される肛門がやが



てジンと面妖な感覚を生じさせ始める。

女はたまらず大きめのお尻をいやらしくゆすった。睦月の二つ目の才能——巧みな愛撫に、激しくうろたえる。

「エッチな二オイ。ミカさん、お尻の穴まで色っぽいね。……あ、広がってきた♪」

溶かすに近い念入りな舌戯を受けて、口を閉じようとする力が弱まってきていた。括約筋はこわばったままなので、火山のような形に盛り上がる肛門。その天辺てんぺんでへこんだ火口部に、舌を沈めていく。

「あうああああ……、くっううああ、あううああ……♡」

汚いはずの敏感口を、柔らかい生き物がにゆるにゆる出入りしている。こみあげる得体の知れない感覚に、ミカはもう、太ももから腰、背中まで震わせた。

（ミカさん、感じてる声だ）

まん丸なお尻いっぱい鳥肌を立てるミカの声色が、あきらかに困惑とはちがうものに変化した。感じ取った睦月は、これまでのものとは別種の、身体がすーっと軽くなるような興奮を覚える。

（もっと、もっとしたいな。えっと）

舐める以上に気持ちイイことをしてあげたくて、記憶を探り、

（指……、入るかな？）

さらに深い部分を探ってみようと思った。

ソープの名残りをかきあつめて指をヌルつかせる。舌を離れた谷間の小口は、おびえた小動物のようにひくひくしていた。なるべく優しく、先端をあてがい――。

――にゆるう。

「うあんっ」

なのに軽く触れただけで、第一関節までめり込んでしまった。

歓迎するよう、向こうからユルんだような気がする。ぎよつとしつつも、面白くなった睦月は、興奮の面持ちで指を押し込んでいく。

ぐにゆぐにゆした直腸は、驚くほど柔らかかった。ただ異物におびえた感じであろうごめいてるので、まずはリラックスさせるべく、第二関節で緊張気味な括約筋を、内側からマッサージする。

――ぬむ、ぬむ……。ぬぶぬぶぬぶ、にゆぶにゆぶニユポニユポ。

「ひいいんっ。こおらああ、お尻、中から……。あつ、あつ、。ひやあああん」

「あはは、だってイジることにならなくなつてくから。奥のほうもヌルヌルしててあんまり痛くなさそうだし」

「ううう……。んっ♡ ンンっ♡」

音を立てて出入りする中指に、ミカが悲鳴をあげる。

「あれはどうして？」

聞くのもおかしな話だし、そもそも答えなんて欲しくなかったが、自暴自棄といった感じで口が勝手に回っていた。

「精子を採取するため」

彼女は機械のように、無情な答えを返すことなど、分かっていたのに。

「貴方の精細胞の調査も、私たちの目的のひとつ。尚早ではあったがいい機会だったので採取させてもらった」

「……そんなことのために？ そんなことのために、キス……っ、とか、色々したの？」

「Positive」

淡々と首を縦にふるマキナ。ある意味で一番ショックな回答だった。

睦月は、セックスとは愛情の延長線にあるものだと思っている。なのにこれでは……。

「そんなの……でも、気持ち悪くなかったの？ 仕事で……そんなこと」

「私はあなたのそばにあるべく存在し、活動している。肉体提供も活動に対する必要性の内。遂行に際し嫌悪を覚えることは自己矛盾に相当する。不快感は、ない」

「そう」

いつの間にか睦月にも、彼女の淡々とした口調が移っていた。

「それで？ 役に立った？」

「Negative。調査に足る細胞は私の胎内に残ったものだけで、すべて卵細胞、私の生命の影響を受け、性質が変化していた。膈外に射精されたものが必要」

「……………ふーん」

☆

☆

なんだかなにもかもバカらしくなった。

彼女とひとつになれたときは、本当に幸せだった。処女を捧げてくれて、一生かけても責任を取るつもりだった。まだ子供でもそれだけの覚悟はしていた。

けれどあちらにそんな気はさらさらなかった。あれは彼女がFeTUSという組織のためにしたこと。自分たちは、『藤田睦月と伊部草マキナ』でなく、『蛇眼保持者』とFeTUSの人間』でしかなかったのだ。

心にあった彼女への気持ちは、急激に冷えていくのを感じる。
だから……………。

「もっと強く押しつけてみて」

「……………こう？」

見ていれば、気分は乗りきらなくても、肩から紐をずらして水着をめくり、たわわなバストをすくいあげる彼女。勃起するのに苦労はしなかった。

ベッドに腰かけ、ズボンを下ろした睦月の足元に、少女がひざまずく。

クラスの男子を一目で虜にした見事な肢体が、目の前で、自分のためだけに無防備になっている。ムズ痒い征服感に睦月の胸は震えた。

——にゆるん……っ。

ぷるぷる妖しく波打つ球形が、左右から集められて縦長にひしゃげる。

赤ん坊のほっぺのような、甘い柔らかみと弾力とに、感じやすいペニスを包まれる。粘膜的なそれとはちがう優しい快感に背筋を震わせる少年。

前回は役に立たなかったという『精細胞の採取』。もう一度協力することにした。

腔に出さなければどんな方法でもいいので、睦月が提案したのは……いわゆるパイズリ。クラスメイトのうらやむ巨乳をひとりじめしたいという要望に、マキナは平然と応じた。

「これで、動かす？」

「うん。……っ、……う」

シャワーの名残りがかすかに蒸れた谷間に、キノコ型のフォルムを巻き込み、白い乳たぶを上下させだす少女。

(あつ、……うっ、こ、これ、意外とすごいかも)

乗らない気分ではじめたことだが、少年はすぐに快感で鼻を鳴らしてしまった。
お餅を寒天で包んだような感触に、先っちょまで余さず覆われ、雁のくびれを搦めとる
ようなぞられる。

唇に浸される粘着質とも、手のひらによる圧迫感とも、両方合わせた腠肉の質感ともち
がう新しい気持ちよさだった。

「つ……、あつ、は——」

自然と身体が反り返った。後ろについた手でシーツを握りしめる。安物のベッドスプリ
ングがギシツと鳴った。

亀頭をこする感触は、くすぐったいに近いくらい弱いものだ。けれど彼女が胸を上下さ
せる間、休むことなく細かい愉悅が続く。射精に直通するものでなく、全身にしみこんで
くるような。腰がじつくり溶かされているような感じ。

……けれど、

彼女を見下ろす。

「……………」

膝立ちになって自分で大きな乳房を転がし、男根に奉仕するマキナ。

その顔はいつも通りで、少し頬が赤らんでいるだけで、表情と呼べるものがなかった。
あくまで事務的に身体を使ってくれているだけ。

見ていると、

(伊部草さんは、僕が蛇眼を持つてからこうしてるだけだ)

どうしても胸にしらけたものが湧いてしまう。

自分の中にある苛立ち、失望。そして消えない彼女への愛しさにかられ、睦月は、

「んっ。……ふ、藤田君？」

手を伸ばして、無防備に上下しているピンクの突起をつまんだ。少女が驚いた感じに鼻を鳴らす。

「どうか、した？」

「別に？ 続けて」

こりこり乳輪を転がしながら命じる。

少女は戸惑った様子ながら、やがて従順に首をうなずかせ、また乳房をはずませた。

「……………」

なにかイジワルをしてやりたくて、睦月はタップタップはずむ胸乳を、ひときわいやらしく責め始める。

十日ぶりに触れる彼女の身体は、紛れもなく、あの日の愛しい恋人のそれだった。

乳首は先つちよに行くほど感じやすく、逆に付け根の、乳輪との境目も弱い。耳、首、うなじ。わきや背中や横腹も敏感で、つーつと指を這わせれば全身がビクンと悶えるし、



足元が突き崩されて、どこかへ墮ちているような、舞い上がっているような気分。両足をガクガクさせるエンジユ。

少年はなおも痙攣する甘粒を舐ったままだ。あまりのしつこさに、少女はたまらず「ああんっ♡ ひやはうん♡」と恥ずかしい声で喘いでしまう。

——ぴゅるるっ。

柔らかく溶けた腭口がギュッと窄まり、甘酸っぱい花蜜が少年の口の中にぶちまけられた。鼻の頭がメリこんだアヌスもキュンキュン窄まっており、

「……ふぁ♡」

——ぶちゅしゅ……っ。

もうひとつの堰は、打ち崩されてしまった。

——ちよじよ……っ。じよろろ……。じよろろろろ……。っ。

健康的な透明の黄金水が、舐られるクリトリスの付け根ちよつと下からふきだす。

それはへこみにしか見えない小さな尿口を広げ、ふちどりを丸く持ち上げるほどで、アルミ製のデスクにぶつかりひどくはしたくない音を立てた。

(どおして……、こんな……、いつもいつも……っ)

驚いた睦月が口を離したあと、喜悦は熱いものの通る尿道から生まれて、オルガスムスがやんでくれない。

彼にイカされるのは二度目。

そうして連れて行かれる絶頂点は、毎回淫夢で覚えるものとは比べものにならないほど深く、長く続くことを、エンジユは知っていた。

力が入らない。もう立っていられなくなり、ずるずると机から落ちそうになる。

彼に支えられ、床にうずくまったあとも、喜悅の反復はいつまでも続いた。

☆

☆

「……藤田睦月、待て」

凄まじい勢いで反り返った砲身をしごきながら、続けざまに隙だらけな少女の蜜部を襲おうとする睦月を。黒猫が止めた。

「……？」

怪訝そうにふりかえる睦月。

黒猫は眉をひそめながら、「命令を忘れるな」と釘をさした。

つい先ほど言ったことなのだ。「射精するなら膣以外で」と。

完璧に洗脳された少年が、主の命令を忘れることはありえない。しかし睦月は切っ先を膣肉へとあてがっていた。それどころか、

「……了解しました」

うなずくものの、どこかうとましそうな顔さえ見せる。

様子がおかしい——。イレギュラーなことが起きていると直感し、黒猫はその蛇眼の力を抑えるグラスレンズの奥で、いぶかしげに目を細めた。

(……あれ?)

ちやうど何度もおもらしさせられた、淫夢の中にいる気分で、エンジユはまだ朦朧としていた。

身体が生クリームになっていて、起こす気力も起きない。床に突っ伏したまま動けなかった。後ろにきた睦月が、お尻を持ち上げてきても、大人しく従うだけ。

そんな状態なのに、責め苦は容赦なく続く。

(なんか来た……。あ、やだ。ソコ……)

抱えた腰の、お尻の谷間に彼が顔をうずめてくる。……またお尻の穴にするの? ぼんやりしながら、恥ずかしさに顔をしかめるエンジユ。

少年は挨拶代わりに、まだ絶頂にわなわな皺を隆起させているアヌスに鼻を近づけ、すーっと息を吸った。それから……。

——ちゅむ、ニユルウ……。

キスと同時に、柔らかくて長く伸びる、舌を入れてくる。

「っ……、あ……っ、あ……っ」

条件反射でくびれた腹部をよじるエンジュだが、可愛いオヘソが歪む程度で、逃げることはできなかつた。お尻も動かなくて、声を出そうにも「うう……、くうん……」とまるで喜んでいような音色がこぼれるくらい。

また丹念で、きめ細かく、そして巧みな奉仕が、今度はアヌスに課せられる。

(も……コイツ、なんでこんな……。やだやだ恥ずかしい)

寄り集まった紅皺を、一本一本もつとへこませるよう押し込んだり、かと思えば硬くした先っちょを中で返して、釣り針のように括約筋をひっつかいたり。

先ほど指でされたときも思ったが、ツボを心得すぎている。まるでこちらの感じるポイントを、最初から知っていたようだ。

すっかり快楽に弱くなった身体は、自然といかにも敏感そうにお尻をせりあげてしまう。

(汚くないの……? あ、ニオイ……大丈夫?)

まだ失禁絶頂アッペの名残は色濃く、意識がぼんやりしている。

恥ずかしい。思っていて、どうしても彼のすることを受け入れてしまつて……。

「さらに感じやすくなつている。フフ、絶頂でスイッチが入つたか」

「んあ……っ。……あ。——っ!!」

睦月とは別の方向から伸びてきた手に、充血した小粒をつままれたことで、ようやく理性が戻った。

「さっ、触らないで！」

興味深そうに胸をなぞる、細い指をふりほどく。

しゃがみこんだ黒猫が、顔を覗き込んできていた。睦月ならともかく敵を目の前にして惚けているエンジユではなく、なんとか正気に戻れる。だが……。

——ヌゲ……。

「っあ……。ちよお……。む、つき……。っ」

反撃には出られない。

柔らかくなつた直腸へ、睦月の指が二本も入ってきたのだ。ニユルリ、ニユクリと舌では届かなかつた深いところまでまさぐってくる。

「むっ……。ばっかっ、いつまでっ、あやつられて……。ああああっ」

おかげで憎き敵を目の前にして、少女は気持ち強く保てない。

「フフ、蛇眼は飢情誘発作用こそあれ、肛門^{コウモン}をゆるめる作用はないはずだがなあ？」

「あう……。っ。う……。っ」

悔しくてならないのだが、できることはなにもなかった。

排泄のための穴は、すっかり快樂の急所にされている。もぐりこんだ指がクニクニ器用



にうごめくとき、湧き上がってくる甘ったるい気分が抑えられなかった。目元がとろんと潤み、睨む目つきにも迫力がない。

「どんな気分だ地遊尼エンジン？ 肛門の二オイも、味も調べられるのは？」

「やめ……っ、さわるっ、なあっ」

「面白いな、尻孔が柔らかくなるのに反比例して、こっちはカチカチに戻っていく」

今度は胸でなく、よりきわどい箇所へ指を向けてくる黒猫。

まだ包皮を弾いたままで、刺激を待つようにむっちり尖ったクリトリスを捕らえられた。

エンジュは悔しげに下唇を噛む。

(やめ……て……。あっ、いや。前、前、される、あああお尻がひらくっ。ひらいちゃう、どうしよお戻らないよお……っ)

そこは快樂スイッチのまま、なぞられるとどうしても膣内に力がこもる。すると息みは筋肉のつながっている肛粘膜まで伝って、淡褐色の柔菊が裏返るような反応を示してしまふ。

二本の指に絡むアヌス皺が、自分からびんと張って口径をゆるめた。

「ん……これなら、もっと太いのも気持ちよくなれるよね」

指を引き抜く睦月。

刺激のなくなった濡肛は、一度キュッと窄まるものの、姫核を転がされるのに合わせて

どこか物足りなそうにヒクついていた。時おり周囲が円柱上に盛り上がったかと思うと、ピンク色の中身が見える。

「……ちよつと痛いかも」

「え……？ あつ、睦月、なにす——」

引きしまった腰のくびれを掴まえたまま、少年は改めてずたずたのミニスカートをかきわけた。

均等に丸い左右の肉たぶへ、熱いエラをあてがう。

おののくエンジュ。こちらの穴が愛撫の対象になることすら、ミカとのかを見えるまで知らなかったが、本能のような部分でなにをされるか悟った。だが……。

「やつ、だめえつ。そんなの絶対無理……あつ」

——うにゆ。

すでにエンジュの肛粘膜は、彼女自身より彼に従順だ。切っ先に押された小皺は勝手に収縮をゆるめ、ふわつと花開いてしまう。入りたがるものを歓迎してしまう。

——ぬぶ……つ、ぐ……、ずぶぶぶ……つ。

指二本よりいくらか太いものが、進入を開始した。

「あつ……あああつ、だめえ……つ！」

目を見ひらく少女。

この続きは製品版をご購入の上、
お楽しみください。

編集・発行

株式会社キルタイムコミュニケーション

〒104-0041 東京都中央区新富1-3-7ヨドコウビル

TEL03-3555-3431 (販売) / FAX03-3551-1208

※本作品の全部あるいは一部を無断で複製・転載・配信・送信したり、ホームページ上に転載することを禁止します。本作品の内容を無断で改変、改ざん等行うことも禁止します。また、有償・無償にかかわらず本作品を第三者に譲渡することはできません。

©KILL TIME COMMUNICATION Printed in Japan

<http://ktcom.jp/>

仙獄学園戦姫

ノブナガツ! comic



信長が、秀吉が、義一が、エツチにバトルにと漫画で大活躍！
もうひとつの『仙獄学園戦姫ノブナガツ!』がここにある!!

待たせたら

毎月中旬
発売!!

18歳未満の方は
購入できません

18

漫画：老眼
原作：斐之嘉和
キャラクター原案：SAIPACO

戦うヒロインが屈服させられちゃうアンソロジーコミックス
『闘神艶戯』偶数号にて連載中!

編集・発行 キルタイムコミュニケーション

〒104-0041 東京都中央区新富1-3-7ヨドコビル TEL:03-3555-3431 (販売) FAX:03-3551-1208

<http://ktcom.jp/>

あとみっく文庫最新刊

ちょっと大人のライトノベル / 毎月下旬ぞくぞく刊行中!! 定価/690円(税込)



「当方Mドレイ希望」
魔界最強のプリンセスがドレイ志願!?



全国書店で
好評発売中

不死の吸血姫がD.S.のご主人様を募集
しているようです
【小説：酒井 / 挿絵：にの子】

思春期なアダム3

二人泣きの子猫

【小説：さかき傘 / 挿絵：天海雪乃】

全国書店で
好評発売中



「…藤田君は責任取るべき」

睦月への想いに身を焦がすマキナ
彼女は夜の教室で……!?

借金お嬢クリス3

令嬢はいかにして
42兆円を返済したか?

【小説：筑摩十幸 / 挿絵：了藤誠仁】



全国書店で
好評発売中

「愛するシクレット様のため、
死んでも構いませんわー!」



既刊LINEUP

全国書店で好評発売中

- 仙窟守聖戦姫 / ノナガツ ①～③
- 拘束 / 帝都少女探偵団 赤い探路を駆て!
- BLANGEL 輪になって踊る悪者の夜

- 借金お嬢クリス ①～②
- プリンセスリバーシ!! 交錯する美姫と魔姫
- 無敵の姫騎士がMMに目覚めたようです

- ビルクリムメイデン ①～②
- 呪詛喰らい師【コースイーター】
- 魔界少女ルルイ・エルル



あとみっく文庫

既刊情報

仙獄学艶戦姫ノブナガツ!

第一次水着大戦

超能力者の少年少女たちが集う特殊な学園——西開学園、北宮学園、聖ジョウント学園。それぞれが仙獄島の覇権を求め、ちょっとHな三つ巴バトルの幕が開ける!! 平和なはずのミスコン勝負は、暗殺騒動が起きたり水着美少女が縄で緊縛されたり触手生物が現れたりで、とんでもない方向に進んで——!?

小説●斐芝嘉和
挿絵●SAIPACo.

全国書店で
好評
発売中

仙獄学艶戦姫ノブナガツ! 弐

北宮学園生徒会長選挙戦

絶対的な権力を誇る北宮学園の生徒会長の座を競い、義元、氏康、晴信ら北宮三大美女はもちろんのこと、長尾く美姫)景虎、宇佐美く奈々)定満といった新ヒロインも加わり、エッチにバトルを繰り広げる!! 敗北したヒロインは勝者の奴隷に!?

小説●斐芝嘉和
挿絵●SAIPACo.

全国書店で
好評
発売中

詳しくはKTCの
オフィシャルサイトで <http://ktcom.jp/>



仙獄学艶戦姫ノブナガツ!

信玄、出陣!

北宮学園の生徒会長選挙戦も大詰め。肉欲に堕ちた義元と氏康を従えた景虎は、更なる戦力の拡大を図る。そんな中、信玄は元凶である按針を倒そうと信長に協力を求め、聖ジョウントのエリザは封印された化け物を発見する。様々な思惑が交錯する物語は佳境を迎え、信長は姦落の危機に陥るのだが!?

小説●**斐芝嘉和**
挿絵●**SAIPACo.**



全国書店で
好評
発売中

BLANGEL

輪になりて踊る患者の夜

月下の街を紅に染め上げる、鮮血のサスペンスアクションの幕が上がる! 吸血姫アリシアは異形の生物「被験体」の影を追って戦い続けるが、予想もしない反撃に遭って虜囚の辱めに晒されてしまう!! 『隔月刊コミックヴァルキリー』の長期連載人気漫画が待望の小説化!

小説●**夜士郎**
原作・挿絵●**渡瀬行人**



全国書店で
好評
発売中



思春期なアダム

謎の少年ルシアの手で“蛇眼”の力に覚醒した藤田陸月。世界の半分を支配する秘密を秘めた彼をめぐり、天使と悪魔そして人間による争奪戦が始まった！ ごく普通の少年の日常は一変し、美少女天使のエンジュや憧れの同級生伊部草マキナまで巻き込み、激しくそしてエッチに胎動する！

小説●さかき傘
挿絵●天海雪乃



全国書店で
**好評
発売中**

思春期なアダム 2

背後をならう者

「世界の半分を支配する力」を秘めた“蛇眼”の持ち主として、天使たちに保護されたごく普通の少年、陸月。それでも普段通りの学園生活を送る彼の前に、新たな刺客が現れる…。天使・悪魔・人間の三つどもえのバトルはより過熱！ “蛇眼”をめぐり迫り来る美女に美少女&美少年(!?)たちの誘惑で、陸月も新たな局面に…?

小説●さかき傘
挿絵●天海雪乃



全国書店で
**好評
発売中**



借金お嬢クリス

42兆円耳を揃えて返してやりますわ

異世界の住人・ジグレットの奸計で父を失い、突如無一文となった令嬢クリス。なんとその借金額は42兆円! クリスは借金取り立てに現れた武装精霊ガーランドの力を借り、ジグレットへ借金返済の戦いを挑むことに! 果たして、傲岸不遜な令嬢はセレブな日常を取り戻し、己の貞操を守ることができるのか!?

小説●筑摩十幸

挿絵●了藤誠仁

全国書店で
好評
発売中

借金お嬢クリス2

42兆円踏み倒してやりますわ

セレブから無一文に転落したクリスは、借金を返すために今日もバイト&バトル!? 水着コンテストで痴態を晒し、工事現場で肉体労働&ガーランドからの肉体調教と、八面六臂の活躍(?)に加え、ライバルのロリ令嬢、サキも加わり、エッチ&借金バトルはより熱く燃え上がる!

小説●筑摩十幸

挿絵●了藤誠仁

全国書店で
好評
発売中

コミックス同人誌版も発売中!

全国の同人誌ショップ、キルタイムコミュニケーション通販にて取り扱っております。

KTC サイト <http://ktcom.jp/>



title:

ノブナガ繚乱!

lineup:

『明智の策略』

トキサナ

『DSの流儀』

chaccu

『生徒会長前哨戦?』

天道まさえ

title:

発情期なアダム

lineup:

『いつもの学園生活』 天道まさえ

『天使の誘惑』 ウメ吉

『ELECTRIC LOVE』 空木次葉



電子書籍版もあります!

各種ダウンロードサイトにて発売中! ※18歳未満の方は購入できません。

キルタイムコミュニケーション オフィシャルサイト

<http://ktcom.jp/>

- ◎雑誌、コミック、小説の**通信販売**もやってるよ!
- ◎二次元ドリームマガジン・コミックアンリアル**のバックナンバー**も買えるよ!
- ◎**ジャンル別**で作品も選べて超便利!
来かねる場合がございませう。い場合、お手数ですが再度お問い合わせください。
- ◎二次元編集部**の愉快的Blog**も更新中!

VALKYRIE



<http://www.comic- Valkyrie.com/>

cranberry



<http://www.cran-berry.com/>

mille-feuille
ミルフィーユ



<http://www.mille-feuille.jp/>

**モバイル二次元
ドリーム**



<http://www.2d-dream.jp/>



KTCの戦うヒロインオンリー漫画雑誌! 18禁ではないからこそ表現できるドキドキがある!!

二次元ドリームノベルズがアニメにも進出! 新生ブランド・クランベリーをよろしく!!

二次元ドリームノベルズから生まれた美少女ゲーム! 「ミルフィーユ」ブランドにて続々登場!

二次元ドリームノベルズが携帯電話で読める! 携帯サイト限定の書き下ろし小説もあるよ!